

nouvelle Fontaine

発行日 2023年10月25日

発行 岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Email: fontaine@sensyu.ne.jp

https://jisen.jp

初めての試み 『年初め 紅白音合戦in自泉』

昨年11月、岸和田市市制施行100周年記念事業「竹灯りイベント」が岸和田城下町界隈で開催されました。

自泉会館は、岸和田駅から会場である岸和田城までの道のりにあります。当館をより多くの人に知っていただくこと、所有するフルコンサートピアノに触れてもらうことを目的に「竹灯りイベント」の期間中18:00~20:00の2時間「ストリートピアノin自泉」を開催しました。「誰も来なかったらどうしよう」との心配をよそに予想以上の方々が来場されました。なんと、10日間で207人。様々なジャンルの音楽や楽器を楽しみ演奏されている方々に、ご参加いただきました。

クラシック音楽を中心とした事業が多い当協会では「ストリートピアノin自泉」を通して、もう一つリサーチしたい事業がありました。それは「子どもたちがどのようなジャンルを好んで演奏するのか」「それを受けて今後のジュニア向け事業を見直す必要があるのではないか」というものです。イベント終了後、意外と子どもたちはクラシック演奏が多

く、大人のほうがいろいろなジャンルの音楽を楽しまれていることがわかりました。

当協会では毎年、理事や会員から提出されたたくさんの方の事業案の中から、次年度1年間の事業を決めています。その一つとして「ストリートピアノin自泉」でリサーチしたことを考慮した「年初め紅白音合戦in自泉」と称した事業を、この度行う事となりました。

音楽ならなんでもOK（防音設備のないホールなのでほどほどに）。ピアノを弾きたい人、歌いたい人、おもしろ楽器を演奏したい人・・・なんでも有りです。参加者が紅白に分かれて楽しく競い合い、称え合う音楽のお祭りです。

なんだか、新しい年が楽しくないですか？ワクワクしてきませんか！？

人は一生音楽に触れながら暮らしていくと思います。でも人前で演奏する機会には、なかなか出会えるものではありません。

文字通り年の初めのお楽しみ「年初め紅白音合戦in自泉」にぜひご参加を！

「年初め 紅白音合戦in自泉」参加者募集

募集要項

- 参加募集人数(組数): 40人(40組) ※グループでの申し込み可
- 1人(1組)の持ち時間: 5分程度まで ※大幅を超える場合は相談可(参加費を追加でいただく場合あり)
- 参加費用: 1人(1組)につき1,000円
- 音量規制: 基本生音、音源が生でない場合は音調整必要(防音設備のないホールのため)
- 応募期間: 11月7日(火)~ 先着順
- 自泉会館事務所またはHP掲載の申込書に必要事項をお書きの上、料金を添えてお申し込みください。

本番

年初め紅白音合戦in自泉

日時: 2024年1月8日(月・祝) 午後1時開演(30分前開場)

会場: 岸和田市立自泉会館ホール

定員: 80名

入場無料(鑑賞者)

☎問合せ先

岸和田文化事業協会 〒596-0073 岸和田市岸城町5-10 自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801 E-mail fontaine@sensyu.ne.jp

音楽を教えるということ

元大阪芸術大学教授
岸和田文化事業協会理事

宮前 勝代

教育とは、より良き人間活動の育成、人間社会の形成を目指すものである。中でも優れた芸術・立派な芸術活動においては、芸術家の育成を目指す専門技術教育と芸術教育に区分される。

人間の本性には本来二つの精神的な能力「論理的思考」と「想像的思考」があるが、近來の教育は前者だけを伸ばすような方向やシステムに偏って発達してきた。その結果、知能・技術面ばかりが肥大してきた。本来、人間のもつ能力が有機的に結合し、初めて円満な人間形成が実現される。「想像的思考」を育成成熟させる最有効手段が「芸術による教育」である。

音楽教育の現状を反省してみると他の教育と同様、知的・技術的方向にひたすら突っ走っているという状況に晒されていないだろうか。音楽教育の意義は技術を習熟し、人間として調和のとれた発達の基礎を培い、優れた芸術に接し、これを愛好する心情や豊かな情緒を養うことである。自我に潜む人への思いやりや感動、そうした心が強ければ強いほど、その感性は多くほとぼしり、人々を感動の世界に誘う音楽が創られるのではないか。

しかしピアノ演奏というのは、技術の習得に手間がかかるため、技巧の習熟のみに終始してしまう危険に晒されている。自分で音を良く聞き、作りだしていくという一番大切なことを忘れ、ひたすらメカニック先行の訓練に明け暮れる結果になりがちである。「ピアノを弾く」その第一は心に音楽があること。これが源泉であり、そのための技術でなければならないはずである。

音楽は芸術である。音楽するという行為は言葉習得する行為とは本質的に異なる。音楽すること・芸術することにとって一番大切なのは自己表現である。自己の内面世界の表出という自己表現から逸れてしまった行為は、楽器を弾くという外見的には類似の行為をしていますが、およそ芸術的行為とは言えないわけである。

音楽を教えるということは結局、生徒が自分自身で有している内面世界を、音という表現手段によってより良く表現できるように導くことに他ならない。

「ベルカントこそがピアノ演奏の美学だ」と言ったのはホロウィッツであるが、歌うことは音楽家として当然のことである。ピアノは所詮楽器である。私たちは、この楽器をまるでPCのキィを

打つが如く機械的に演奏しがちである。ところがピアノでもって音楽的なフレーズを作るとなると、大変難しいのである。ピアニストは声楽や他の楽器に比べてメカニックに走りやすい危険を孕んでいる。歌手は自分の音声を作り出し、これを育てていくし、弦楽器の演奏者も同じである。彼らは、美しい音色を作り出すのが最高の目的であると教えられている。対してピアノは、既に用意されている鍵盤に自分のやり方で触れさえすれば、直ちに音がでる状態にある。それが音を創りだしていくことを疎かにする原因になっている。「ピアノを弾く」ということが音楽することから離れ、テクニックの訓練それ自体を目的にするものであってはならない。かといって鍵盤上での正しい最も自然な指の動かし方をマスターせず音楽するわけにはいかない。テクニックと音楽は、いわば車の両輪のようなもので片方だけが先に走っては意味がない。

真の音楽的テクニックとは決して単に「大きな音を早く弾く技術」ではない。「音の微妙な色彩」を如何に出すか、音をどうコントロールするか、こういったことが真の意味でのテクニックなのである。とりわけどの様な音質で、どの様な表情のある音を作り出すかということほどピアノ演奏にとって大切な側面はない。音楽的なテクニックというのは音楽術だけでなくフレージングやタッチ、リズム、アクセント、デュナーミク等はもちろん、なによりも美しい音色を作り出す技術が必要である。テクニックは音楽そのものであるという心構えで学ばなければならない。



『熊沢友雄日記』

～岸和田藩士の暮らしをたどる～



嘉永五年(1852)から明治二十八年(1895)までの間記述された『熊沢友雄日記』。このページでは岸和田まつり関連の日記を抜粋して紹介していきます。

※月日は新暦

明治十八年 (1885)

九月二十一日 岸城神社祭礼

(本社普請に付十五日の処、延日に相成)に付、午前十時過より退庁 直ちに参拝、祭典に預かるオワテ①直会の席に列し、神酒拝戴、正午十二時相済帰宅す
本日來客・・・

抑(そもそも)、近來世上不景氣により到る處苦情を鳴し、困弊世界なりしに、幸に夏以來暑熱甚敷(はなはだしく)秋期に至り順氣頗(すこぶ)る宜敷(よろしく)稲作及び綿作の景況頓に見直し
以外の豊熟なるにより、人氣稍(やや)持直し
終に本日②担尻を出すの運に到り
昨日より岸和田及び接続町村より此れを引出し、今日は殊(こと)に近在よりの見物人群をなし、実に近來の賑ひなりし

①なおらい＝神饌を皆で会食すること
←神との一体感

②だんじり＝壇尻をこの文字で表現している



明治十九年 (1886)

九月十日 本日氏神祭日

③コレラ病未熄滅(そくめつ)せざるにより延引之旨、戸長役場より④申越(もうしふれ)来る
(旧8月13日)
*9月22日コレラで中止

③コレラ蔓延継続

④告げ知らせること

明治二十年 (1887)

九月十五日 氏神祭りに付、例の通鏡餅一重を献進す

來客は以外に少なく
土生村岡森夫婦及上松村忠右衛門の三人也
一汁三菜肴三種にて酒飯を振舞
夜に入何れも帰る
本年は農家豊作の見込みあると、世上何となく景氣を見直したるとにより、殊の外賑ひ、壇尻も計⑤十九出
聊(いささか)の喧嘩等は有之候得共、為差(さしたる)故障も無之、無滞(とどこおりなく)相済候事

⑤現在、旧市街は22基曳行

明治18年は不景氣のため、不平が多く民衆は苦しみ疲れているとのこと。何やら昨今のニュースを聞いているようではありませんか。この年は、最初の日本人移民がハワイに到着、関東では鉄道が次々に開業し日本初の駅弁も販売されました。ちなみににぎりめし2個とたくあんで5銭だとか。当時の「1銭」は現在の「200円」にあたり、天井が4銭ほどだったようなので、初の駅弁はかなり高額です。明るい出来事がある中で、6月から7月にかけては淀川の洪水が起きています。そのための不景氣だったのでしょうか。そんな中でも、往事は夏の暑さが爽りの秋を導く恵みとなったようです。けれど、現代のような酷暑が続いたならどうでしょう。こうした記述から、現代の地球温暖化に思い至ることができますね。明治19年のコレラ流行は死者10万人を越え、明治時代に何度か流行した中で最大級のものだったそうです。

研/修/旅/行

自泉会館の建物を探る タイル編

日程:2023年10月9日(月・祝)

行先:淡路島

お香作り体験(薫寿堂)



手順2



手順1



手順3

手順4



(株)Danto Tile 淡路島工場



Danto Tile
の資料



Danto Tile
での
研修の様子



Danto Tile
のトイレの床



岸和田文化事業協会の研修旅行が帰ってきました！
コロナ過で中止が続いていた為4年ぶりとなった研修旅行は、自泉会館を美しく彩るタイルについて、日本における内装タイル製造の先駆け「株式会社Danto Tile」を訪ねる旅です。

昨夜降っていた雨も上がり、参加者41名を乗せバスは岸和田を出発。明石海峡大橋を渡って、最初の見学地は「株式会社薫寿堂」です。

推古3(595)年4月、淡路島に香木が漂着したと日本書紀に記されており、そこから日本のお香の歴史が始まったそうです。薫寿堂さんは134年の歴史を持ち、お線香や室内香を生産・販売しています。いい香りが漂う中でお香作りを体験。お香の元となる粉に水と好きな香りの香油を混ぜ、練って伸ばして、型抜きで抜いて完成です。「失敗した人はないから大丈夫！」とスタッフさん。粘土遊びやクッキー作りを連想する作業は楽しく、皆さん笑顔で取り組んでいました。

手作りお香をお土産に、お楽しみの昼食へ。「Hotel & Resorts南淡路」は淡路島の南端に位置し、鳴門大橋や四国が間近です。海の幸や淡路のタマネギを用いたお食事の後は中庭や展望台を散策し、鳴門の渦潮を眺めたりしました。

今回の研修旅行の目的「(株)Danto Tile 淡路島工場」はそこから5分ほど。技術研究所 上席研究員 深井 明比古氏が迎えてくださいました。兵庫県立考古学博物館の名誉学芸員でもある深井さんは、今年からDanto Tileにいらしたそうです。それまでにDanto Tileの起源となる「珉平焼」の発掘にも携わり、それに基づく資料を編年し「タイル考古学」として当時の社会・生活・文化の実態や変化を解明するため奮励しておられます。生産地によって違うタイルの裏側が近代建築の調査に役立つことや、各地で出土した様々な美しいタイルのお話を伺い、その後、資料室と工場を見学しました。タイルの形成から焼きまで行う広い工場を5~6人で稼働させているのに驚き、タイルを敷き詰めた床がとても素敵なトイレには「さすが！」と感心してしまいました。

自泉会館のタイルはどこで作られたのか…淡陶タイル(現(株)Danto Tile)ではないようで、研修旅行でそれを解明することは出来ませんでした。けれど、今までよりタイルに対して興味が持てたのは大きな収穫です。

岸和田の大切な文化財・自泉会館。今回のような経験から、新たな視点による魅力を発見していきたいとの思いが残る研修旅行でした。

泉州の 近代建築

vol.3

岸和田が誇る歴史。寺社仏閣や城下町はもちろん、趣ある近代建築も忘れてはなりません。その魅力や特徴を、大阪府ヘリテージマネージャーの山岡邦章氏にご紹介いただきます。

「岸和田城」編

城跡と八陣の庭と天守閣

岡部～大屋～重森～池田谷という幸運

大阪府ヘリテージマネージャー 山岡 邦章

岸和田城跡は廃藩置県後、陸軍省・農商務省の所轄用地となり民間に買い戻された後、再び岡部家の所有となるが、昭和3（1928）年に岡部家からの市公園敷地としての寄贈を受け、岸和田市で昭和天皇の即位御大典記念事業として城跡を公園整備することとなった。

整備は東京帝国大学・大屋霊城が企画・設計しており、本丸内の園内整理を行い本来の城跡の趣を尊重し、なるべく旧態を保存することに配慮した設計とした。また、公園入口の整理、東入口の新設、犬走りへの木橋の架設、池縁装飾として古図に基づき「池の外側の周囲より遙かに本丸址の風光を仰ぎつつ周遊」できるよう堀の東側並びに北側を埋め立てて、廻遊道路を設けるとともに子供遊園を北側に設置、さらに中木石垣の犬走りから堀に浮御堂風の休憩所を設け、黒長祠の整理を行った。この大屋の整備理念は、天守閣前の『公園標』に「本公園ハ子爵岡部長景閣下先考長職公ノ後ヲ承ケ襲爵セラルルニ方リ 記念ノ為メ旧封猪伏山＝城址本丸並ニ城濠ヲ現状ノ儘本市ニ寄贈セラレタルモノナリ・・・（中略）而シテ 又藩祖宣勝公以来十四世三百年ノ旧称ニ因ミ千亀利公園ト命名シ 長ク岡部家旧城址タルノ形態ヲ保存シ（略）」と記されており、城跡としての要素を残したうえで市民の休養のための公園を目指したことがわかる。

城跡内は戦時中、農作物が植えられ荒廃したが、昭和28（1953）年、岸和田城跡に児童遊園地を建設する案が検討された際、当時の岸和田市長が岸和田城跡の整備方法について作庭家の重森三玲に相談しており、そのことを重森は『日本庭園史大系29』にて「昭和28年初春以来、岸和田市では本城二の丸の堀の一部を埋めて、児童遊園地を設ける案があった。（中略）この時、私は福本市長に対して、城の石垣は長く曲線を引いて堀に下がっているからこそ美しいので、その堀を半ば埋め立てて遊園地を作ることは、城跡を荒廃に導くことであるから中止されたい。そしてむしろ、本丸に庭園を作ることによって城廓を永遠に保存することが出来るが、それには高度な傑出したものを築造する以外にないと言（後略）」と後述している。

これらから「八陣の庭」の目的とは「城跡を保存するため」の本丸跡への庭園であったことがわかる。重森の提案を受けた市では、重森の設計・監督の下、市の直接施工で天守台から見下ろすことができる本丸跡に「八陣の庭」を作庭し、岸和田城跡を「永遠に」保存することとした。昭和28（1953）年12月に完成した八陣の庭には、翌年、池田谷久吉の設計により三層三階の模擬天守が再建された。この「天守閣」は市民からの要望で「桃山様式の天守」として池田谷が独自でデザインした天守建造物であり、戦後復興の天守としては富山城天守とならぶ初期のものである。

構造も本来五層であったとされる天守を三層とし、躯体はSRC構造で、鉄骨自体もトラス組鉄骨を用い、屋根は木の小屋組みを用いるという複合的な構造を採用している。なお重森三玲の日記には、岸和田城庭園を作庭中、池田谷久吉と会った旨記されている。重森は翌年に建てられる



「天守」を明確に認識して作庭に臨んだと考えられる。

近年、庭園と天守閣の関係性を考える上で重要な研究がなされている。重森は庭園を設計するにあたり、景石の配置を翌年建設される「天守閣」と関連付けて配置していることがわかってきた。これにより庭園と天守閣は一体のものであり、お互いに関連したものと位置付けられるようになった。今後はこれらの視点で庭園と天守閣の関係性を重視し、先人が残すよう努力したその景観を守り伝える必要があるだろう。

明治の廃城令以降、日本の城は様々な運命をたどる。その中で、岸和田城は幾つかの幸運があったといえる。一つは岡部家による再所有。一つは昭和初期に大屋による城跡を残すべくした公園整備。一つは重森による城跡を後世に残すための庭園施工。そして市民の手による天守閣復興である。これらがすべてタイミングよく作用した結果が、現在の岸和田城の景観を構成しているのである。

講演会と現地案内 「城跡と八陣の庭と天守閣」

日時：令和5年(2023年)11月11日(土)午前10時～正午
会場(場所)：自泉会館展示室と岸和田城
参加費：無料(ただし天守閣入場料は各自支払い)
講師：大阪府ヘリテージマネージャー 山岡邦章氏
定員：30名
申込受付：11月4日(土)より先着順。
定員になり次第締め切り。

下記の事務所まで直接来館またはお電話でお申し込みください。
問合せ先：岸和田文化事業協会
〒596-0073 岸和田市岸城町 5-10 自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801



Ichigo-ichien

近況

たん ぼ
反 甫 進



私は今年で七十五歳に成りました。昨年の三月で完全に退職し今は全くフリーです。退職後の生活を考え何か趣味を持つ必要が有ると思ひ、近くの公民館で月一回の俳句の会に参加しました。

始めた当初は季重ね等失敗の連続でしたが、続けるうちに何とか俳句らしい物が出来る様に成りました。季節の変化にも敏感になり、草花に目が行く様になりました。時折、歳時記を読み日本語の奥深さにも触れています。

また六年前には健老大学に入学し、自治会役員になりました。大学祭の舞台リーダーとして準備に力を注ぎました。今は自治会が無くなり学生部となり、その総務部長を担当しています。その学生部には三大行事として「新入生歓迎懇親会」「大学祭」「社会見学」があります。委員総勢二十六名で三大行事を遂行しています。

健老大学には三十以上のクラブが有り、私はボーカルクラブと俳句クラブに入っています。お陰で毎日充実した生活を送っています。

今は仕事のストレスも無く、人生で一番楽しい生活が送れている事に感謝しています。

そして今年から岸和田市文化事業協会の理事に就任することとなりました。理事になれたことでコンサートを行うノウハウを知り、宮崎剛先生のピアノコンサートを独自で開催することができ、また一つ「人生の充実」が増えました。

夢への一步一步

自泉アーティストバンク (ピアノ)
中地 莉子



幼い頃にピアノを始め、ただ楽しくピアノを弾いていた私が、本気で音楽の道を目指すため音楽科のある夕陽丘高校へ進学したいと言い出したのは、中学2年生の時でした。そこから私の人生が大きく変化しました。念願だった夕陽丘高校への進学が叶い、入学したと同時にコンサートやコンクールに実技試験、行事も文化祭や体育祭と次から次へと迫るイベントで3年間があっという間だったように感じます。

そして迎えた大学受験。高校入学当初はただ憧れで、自分が通えるとは思ってもみなかった京都市立芸術大学への挑戦は、本当に辛いこと苦しいことばかりでした。しかし「ピアノが弾きたい」その一心で乗り越え合格を掴むことが出来ました。

そんな私が、幼稚園の卒園文集に書いた将来の夢は「ピアニスト」です。それは小学生になっても中学生になっても、そして今でも変わらず「ピアニスト」になることが私の夢です。これまでどんなに練習しても、どんなに努力しても、思うような結果が出ず落ち込むことの方が多くありました。そんな中でもピアノを続けたのは、ピアノを弾くことがただひたすらに大好きだったから、そして好きなことを思う存分させてくれる環境を作ってくれた両親と、親身になってご指導してくださったピアノの先生方がいて、沢山の素敵なご縁に恵まれたからです。

これからも素敵なピアニストになるために感謝の気持ちを忘れず、一步一步、歩んでいきたいと思ひます。応援よろしくお願ひいたします。

★令和5年(2023年)12月17日(日)午後2時からの「第7回自泉クリスマス会 あわてんぼうのクリスマスコンサート」に出演いたします。

*岸和田文化事業協会は、自泉アーティストバンクをとおして若い芸術家を応援しています。

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。アンケートにご協力頂いた方の感想を紹介させていただきます。

第9回自泉Re.フレッシュコンサート ～Special～令和～平成～昭和を歌う

日時:令和5年8月6日(日)午後2時開演
会場:岸和田市立自泉会館ホール
入場者数:85人



〈皆さんの声〉

- ◆心のこもった歌声で、何度かこみ上げるものがありました。
- ◆令和、孫がよく歌っている歌です。平成、安心して聴きました。昭和、世代的なホッとして聴きました。
- ◆小さな会場で身近で聴くことができ、アットホームな感じも良かったです。

第12回自泉ジュニアコンサート

日時:令和5年8月20日(日)午後2時開演
会場:岸和田市立自泉会館ホール
入場者数:68人



〈皆さんの声〉

- ◆子どもたちの素敵な演奏を、客席の私は緊張して聴いていました。
- ◆出演者の皆さんのすばらしい演奏に圧倒されました。
- ◆未来ある子どもたちに、このような機会を岸和田で開催していただけることをうれしく思います。

3館合同事業「いいむらなおき パントマイムワークショップ ～見えないものが見える?!～」発表会

日時:令和5年8月26日(土)午後2時開演
会場:マドカホール
入場者数:114人



〈皆さんの声〉

- ◆皆さんが稽古を頑張られたのが伝わってきて、うるうるしてしまいました。
- ◆娘がぜひ参加したいと今回参加させていただきました。毎回楽しいと言っていて嬉しそうに帰ってくるのを見て、ありがたいなど思いました。
- ◆パントマイムを初めて見ました。6歳でもできるのですね。時間を忘れ楽しかったです。

「第九 ～市民とともに～」合唱参加者募集!

2024年12月15日(日)に、浪切大ホールにて3館(マドカホール・自泉会館・浪切ホール)が合同で「第九」を開催いたします。その演奏会に合唱で参加しませんか。詳しくは各館のHP等で随時お知らせしていきます。

松野 迅&植草 ひろみ デュオコンサート

日時:令和5年9月2日(土)午後2時開演
会場:岸和田市立自泉会館ホール
入場者数:76人



〈皆さんの声〉

- ◆岸和田のテーマ曲、とてもテンポよく、だんじり祭りも浮かんできてワクワクしてきました。
- ◆曲の聴き方を説明してくださるので、聴き流すのではなく興味を持って聴くことができました。
- ◆自泉会館の建物はもちろん、音響も素晴らしく、お二人の格調高い演奏をより美しく響かせていました。

4Pianists! ～4人のピアニストの魅力～

日時:令和5年9月23日(土・祝)午後2時開演
会場:岸和田市立自泉会館ホール
入場者数:63人



〈皆さんの声〉

- ◆4人の個性あふれるソロ演奏・デュオ演奏・作曲家の説明・曲の解説など、とてもわかりやすく素晴らしいコンサートでした。
- ◆それぞれの作曲家の勝手な自分なりのイメージを、全くと言っていいほど裏切られた感覚でした。またそれが素晴らしかったです。
- ◆活発に活動されている岸和田がとてもうらやましいです。

第72回自泉フレッシュコンサート

日時:令和5年10月6日(金)午後6時30分開演
会場:岸和田市立自泉会館ホール
入場者数:51人



〈皆さんの声〉

- ◆若いみなさんが活躍できるこのようなコンサート、どんどん開催してください。
- ◆バラエティーに富んだプログラムでよかったです。
- ◆歴史ある会場での演奏が、とても素敵でした。

●「年初め紅白音合戦in自泉」出演者募集

日 時:令和6年1月8日(月・祝)午後1時開演
 会 場:岸和田市立自泉会館ホール
 募集人数(組数):40人(40組)
 ※グループでの申し込みも可
 参加費:1組1,000円(1組5分程度の演奏時間)
 応募期間:11月7日(火)~先着順

1 詳
面
し
く
は

●第7回自泉クリスマス会
手作りワークショップ



日 時:令和5年12月16日(土)~17日(日)
 午前10時~午後5時(17日は午後4時まで)
 会 場:岸和田市立自泉会館展示室
 入場無料(各ブースではワークショップ材料費必要)

●講演会と現地案内

「岸和田城から見る八陣の庭」

日 時:令和5年11月11日(土)午前10時~正午
 会 場(場所):自泉会館展示室と岸和田城
 講 師:大阪府ヘリテージマネージャー 山岡邦彰氏
 参加費:無料(ただし天守閣入場料は各自支払い)
 定 員:30名
 申込受付:11月4日(土)~ 先着順

●第7回自泉クリスマス会

あわてんぼうのクリスマスコンサート



日 時:令和5年12月17日(日)午後2時開演
 会 場:岸和田市立自泉会館ホール
 出演者等:
 <1部> 第12回自泉ジュニアコンサートで優秀な成績をおさめられた3名
 吉田 龍司 高校3年生 ピアノ (最優秀賞)
 西村 安寿 小学5年生 ピアノ (優秀賞)
 垣田 悠衣 中学2年生 ピアノ (優秀賞)
 <2部> 中地 莉子ピアノコンサート
 チケット:前売1,000円(当日500円増)
 定 員:80名



●第73回自泉フレッシュコンサート

日 時:令和5年12月15日(金)午後6時30分開演
 会 場:岸和田市立自泉会館ホール
 出演者:黒田 志帆 (ソプラノ)
 平田 奈夏子 (ピアノ)
 宮本 涼 (クラリネット)
 チケット:会員前売1,000円(当日200円増)
 一般前売1,200円(当日200円増)



●年初め紅白音合戦in自泉

日 時:令和6年1月8日(月・祝)午後1時開演
 会 場:岸和田市立自泉会館ホール
 入場無料
 定 員:80名



令和5年度(2023年度)(2023年4月~2024年3月)

会員募集

年会費 個人会員(1口) 2,000円 団体会員(1口) 5,000円
 家族会員(1口) 1,000円 法人会員(1口) 10,000円
(個人会員の同居家族) 特別会員(1口) 50,000円
 入会方法 協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。
 郵便振込の場合は 口座番号 00970-9-28145
 加入者名 岸和田文化事業協会
 詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで
 TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

■チケット販売場所

岸和田市立自泉会館事務局

■申し込み・問い合わせ

岸和田文化事業協会事務局まで
 〒596-0073 岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館
 TEL/FAX 072-437-3801
 E-mail fontaine@sensyu.ne.jp

※事業の詳細・チラシは、岸和田文化事業協会ホームページにも掲載しています。

お知らせ

会員の方は8面に文化情報を掲載することができます。掲載希望の方は事務局までお越しいただき用紙にご記入ください。多数希望の方がいらっしゃる、当協会主催の事業がたくさんあるなど、ご希望に添えない場合がございます。ご了承ください。
 ※自泉会館をご利用の際は、咳エチケットにご協力ください。

お願い

岸和田文化事業協会では取り上げてみてはどうかと思われるコンサートや展示会がございましたら、ぜひ事務局まで案を届けてください。今後の参考にさせていただきます。



vol.80

発行:岸和田文化事業協会

発行日:2023年10月25日

- ◆事務局
〒596-0073
岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp
- ◆編集委員 小末もとえ・小木曾由季・黒木幸子
協力 近江和代・本郷元子・山村若代紀

編集後記...

例年になく暑かった夏も過ぎ、ようやく文化・芸術の秋がやってきましたね。自泉会館ではクリスマス会や新年の紅白音合戦などの楽しいイベントも盛りだくさんです。
 (小木曾)

https://jisen.jp



岸和田文化事業協会

検索

